

## 活動概要(2017年4月)

### ① Family Resource and Gender Analysis(普及ステップ4)に係る県農業局を対象とするプレトレーニングガイダンスの開催

普及ステップ4では、ジェンダー配慮の視点を踏まえて、世帯資源(アセット、人材等)、情報活用、営農計画における意思決定に係る分析を行う。ジェリコ農業局(2017/4/10)、ナブルス農業局及びトゥバス農業局(2017/4/12)において、ファシリテーターとなる県農業局普及員を対象に、実施手順に係る説明・協議を行った。

前のステップの結果を活用しながら、本ステップの結果が次のステップ(Action Planning)にスムーズに繋がる流れを作ること、農民の負担を少なくするため2時間以内で完結できること、参加した農民が主体的に参加できるような演習を多く盛り込むことを念頭に、現地の状況を踏まえて、①営農のための世帯資源、②世帯内労働力、③情報活用及び世帯内情報格差、④営農計画における意思決定の4つのトピックに絞った内容とした。

#### Family Resource and Gender Analysis(普及ステップ4)の構成

##### 1. 営農のための世帯資源確認のための演習：

農業生産・マーケティング活動における効果的活用のための世帯資源(農地面積、ビニールハウス、家畜数、灌漑用水、車両、施設・機械、通信機器等)を確認するための演習

##### 2. 世帯内労働力分析のための演習：

- 1)市場価格と労働負荷の観点から踏まえた作物の分類と演習の題材とする作物・畜産物の選定
- 2)題材として選定された作物及び畜産物の生産・加工・マーケティング・収入管理等の生産工程の確認
- 3)世帯における各工程への従事者(男女別)の傾向についての議論(Activity Profile)
- 4)Activity Profileに基づくジェンダー関連の課題及び改善の方向性と必要性についてのグループ内議論
- 5)上記議論を踏まえた各工程における適切な研修対象者及び研修内容(案)についてのグループ内議論

##### 3. 営農への情報活用及び世帯内情報格差分析のための演習：

- 1)営農に必要な技術情報の収集状況・収集者・情報源及び世帯メンバー間の技術情報格差の分析
- 2)世帯メンバー間での効果的な技術情報共有の方法及び格差を埋めるための方法についてのグループ内議論

##### 4. 営農計画における意思決定参加のための演習(グループメンバーの多数が意思決定者でない場合)：

営農計画における意思決定者への効果的な情報共有及び働きかけ方法についてのグループ内議論



## ② 普及タスクフォース会議の開催(2017/4/13)

普及・地域開発総局内の普及タスクフォースのメンバーを対象に、Market Analysis(普及ステップ3)の結果報告、Family Resource and Gender Analysis(普及ステップ4)の農民向け研修の内容に係る協議を目的として、会議を開催した。各ステップにおけるタスクフォースメンバーの役割を確認するとともに、ステップの改善案が説明され、参加者からの賛同が得られた。特にジェンダーを担当する農村開発・女性局のメンバーが農民向け研修に積極的に参加することが確約された。



## ③ Family Resource and Gender Analysis(普及ステップ4)に係る対象農民グループ向けワークショップの実施

県農業局普及員のファシリテーションの下、世帯のアセット・労働力・情報活用状況の分析とともに、営農計画を実施していくため意思決定者への情報共有・働きかけをいかにすべきか、参加者に議論してもらった。特に、ジェンダー配慮の必要性をプロジェクト側から直接説明するのではなく、営農におけるジェンダー配慮の必要性に参加者が自然と気付くように、ワークショップのファシリテーションの流れを以下のとおりとした。

### Family Resource and Gender Analysis(普及ステップ4)のファシリテーションの流れ

1. まず、前ステップである農民による市場調査の結果を踏まえて、労働負荷が大きい作物ほど市場価格が高い場合が多いことを気づかせ、世帯内労働力の改善が収益の向上に関係することを認識させる。
2. 農作業の各工程への従事や意思決定に男女どちらが従事しているか、営農に係る技術情報を男女どちらが持っているかを確認し、世帯メンバー間での格差があるかどうか確認してもらう。
3. その理由と格差改善の必要性があるかどうか、農家グループ内で議論してもらう。
4. 上記を踏まえて、EVAP では、誰に対してどのような技術研修を実施すべきか参加農民に考えてもらう。(次のステップである Action Planning でその結果を活用する。プロジェクトとしてもグループ毎のジェンダー配慮の方向性を確認できる。)
5. 技術研修で得る知識を営農計画(Action Planning)に反映させるために、意思決定者や家族にどうやって情報共有をすればよいか、グループ内で議論してもらう。(参加者の多数が意思決定者でない場合のみ。)

### ● Aqqaba Extension Women Sub-group(トゥバス)(2017/4/18)

この女性グループでは、主要作物であるアーモンドの栽培を例として、各作業工程に男女のどちらが従事している場合が多いか、農民グループ内で議論を行った。体力・慣習・女性側の技術不足等を理由に、大部分の作業(作物選定、整地、農業資材購入、苗木育成、農薬散布、施肥、販売、収入管理)は男性のみまたは男性を主として行われている一方、収穫・包装は男女双方で、除草・乾燥・皮むき・殻割りは女性を主として行われているとの意見が出た。

農家グループとして不足している情報は、価格、農業インプット、市場需要、苗木品質基準、営農記録、気象、栽培技術であり、それを埋めるために、有効な作物品種選定、定期的な市場訪問、業者とのビジネスマッチング、輸出市場のパレスチナ農産品基準、包装等に関連する研修を実施してほしいとのコメントが挙げられた。なお、この集落では男性農民も営農に従事している世帯が多いので、女性農民だけでなく、男性農民に対しても研修を実施してほしいとの意見が出された。



- Bardala Extension Women Group(トウバス)(2017/4/19)

この女性グループでは、インゲンマメ(green beans)を例として、各作業工程に男女のどちらが従事している場合が多いか、農民グループ内で議論を行った。播種・植え付け・除草・収穫の作業は女性が主として行っている一方、体力・慣習を理由に、大部分の作業(作物選定、整地、農業資材購入、農薬散布、施肥、収入管理)は男性のみまたは男性を主として行われているとの意見が出された。

プロジェクトから提供してもらいたい技術情報として、作物病害診断・対処法、営農記録、寒気・高温等気象状況への対処法、市場・価格情報、市場需要、選別・等級・包装、生産技術(接ぎ木、新種等)を、**女性農民と男性農民双方に実施してほしい**とのコメントが挙げられた。

参加メンバーのうち営農計画の意思決定者は3分の1程度であり、EVAP-2から得られた情報を、口頭での説明やSNSの活用を通じて、意思決定者・家庭内のメンバーに継続的に共有していくことが重要であるとの意見が出された。

**タイム・ハーブ等の栽培は意思決定を含む全てのステップが女性自身で行うことができ、農業収支記録をつけることにより女性も意思決定に積極的に関与できるのでは**とのコメントがあった。

前ステップと同様、ワークショップ会場にはぬりえコーナーを設け、子供連れの参加者も研修に集中できるように配慮した。ぬりえは低コストで子供が一定の時間集中して取り組むこともでき、効果が高いことが確認できた。



- Al-Musafah Extension Sub-Group(ジェリコ)(2017/4/23)

畜産(ヒツジ・ヤギ)の各作業工程に男女のどちらが従事している場合が多いか、農民グループ内で議論を行いました。パレスチナの畜産は家畜を抑え込んだり、放牧のために遠方まで炎天下を移動したりと、体力を使う作業が非常に多いこともあり(sexに依存する作業が多い)、大部分の作業(飼料準備、放牧、投薬、自然・人工授精、家畜・加工品の販売、売上・収入管理)は男性のみで行われている場合が多いとの意見が出された。なお、女性農民も餌やり・搾乳・出産・新生羊の世話をを行う場合もあり、また、小屋掃除・乳加工は女性のみまたは女性が主として行っている場合が多いとの意見が出された。

参加者からは、**男性農民が集落から離れなくてはならない場合も時々あり、その場合には知識や技術のない女性農民は困ってしまうことが多いので、対策として、関連した研修(適正な投薬方法、飼料・餌やり方法、出産・新生羊の世話方法、営農記録等)を女性農民に対しても実施してほしい**との意見が出された。



● Frosh Beit Dajan Extension Sub-Group(ナブルス)(2017/4/26)

この男性グループでは、トマト栽培を例として、各作業工程に男女のどちらが従事している場合が多いか、農民グループ内で議論を行った。このグループの特徴として、イスラエルが統治を行っている C 地区が多い地域であること、イスラエル軍の演習場が近いことから、メンバーのほとんどが農地から離れた場所に住居があり、車で 30 分程度の距離を通っていることがわかった。そのため、全ての作業は基本的には男性農民のみが行い、女性農民が農地まで通って営農に参加するといったことはほとんどないことが確認された。

そのため、この明確な理由を根拠に、このグループに対するジェンダー配慮として、男性農民を対象とすることが効果的であることが認識された。これを踏まえ、適正な農薬使用・施肥方法、灌漑システム、接ぎ木苗の活用、収穫後処理・売り方(ブランド化、宣伝、包装等)、グループ購入・販売に係る研修・技術支援に係る研修を、男性農民に対して実施することが効果的であることが伺えた。



● Al Badhan Mother's School Group(ナブルス)(2017/5/2)

この女性グループでは、カボチャ栽培(新規作物)を例として、各作業工程に男女のどちらが従事する場合が多いか、農家グループ内で議論を行った。この女性グループは、メンバーの主な世帯収入源が農業ではなく、男性のイスラエルへの出稼ぎ等によるものが多いことがわかった。男性は、週末や午後遅い時間帯のみ、部分的に農作業に関わる程度であることがわかった。

そのため、作物選定には、作業負担や作業時間帯等を考慮した上で、女性農民が意思決定を行うことが多い傾向が伺えた。男性不在の平日の日中に水やり・草取り・施肥・収穫・パッキングを含むほぼ全ての作業を女性が行うことが多い一方、体力・慣習を理由として、整地、ビニールシート張り、種子・苗木購入、販売には、男性も部分的に従事しているとの意見が出された。中でも、農薬散布と農機具のメンテナンスは男性のみが行う場合が多いが、イスラエルへの出稼ぎ等で男性農民が不在の場合が多いので、これらの作業工程を女性農民でも実施できるようになりたいとの研修ニーズが挙げられた。加えて、パッキング・等級付・選別、市場価格を考慮した植え付け時期、営農記録、育苗、安全作物栽培についても女性農民を対象に実施してほしいとの意見が挙げられた。つまり、このグループでは、今まで女性農民が従事してこなかった農薬散布等の作業工程に係る研修を女性農民に対して実施してほしいというニーズが強いことが確認された。



#### ④ 女性農民のニーズを把握するための他農家グループの視察(2017/4/19)

ジェニン県農業局より女性農民が農業活動に積極的に参加している組合の情報があり(Jalami Agriculture Cooperative Society、組員数 90 名、うち女性 70 名程度)、プロジェクトでのジェンダー配慮策を検討することを目的に、視察を行った。

プロジェクト対象の女性農家グループのメンバーにも同行してもらい、意見を聴取した。その結果、女性農民の関心は、収益性の高さに加えて、労働負荷の少なさ、生産コストの少なさ、作業の時間帯(受粉等、早朝の特定の時間帯の作業が必要になる作物であるかどうか)等であることがわかった。特に、参加してもらった女性グループは、世帯の男性がイスラエルに出稼ぎにいており、平日は不在になる家庭が多いことから、これらについて特に関心が高いことがわかった。プロジェクトでは、それぞれの対象農家グループの社会的背景を十分踏まえて、ジェンダー配慮の方向性を見定めつつ、支援をしていきたいと考えている。



#### ⑤ 普及・地域開発総局マスメディア部によるグッドプラクティス農家の取材(2017/4/11)

普及・地域開発総局マスメディア部の職員が主体となり、Market Visit を通じて収益性の高さが確認された春キュウリを栽培している農家を取材した。ジェリコ農業局マスメディア部も同行し、協力して取材を行った。

プロジェクト活動が少しずつ波及し、この活動のように、カウンターパートが自発的に活動を実施することは、今後の持続的な普及活動にとって大きな一助になる。

栽培のきっかけは、1)イスラエル市場での需要と価格の高さ、2)トレーダーが買付けに来てくれるため輸送費等が節約可能であるためとのことであった。他の作物と比べて収量は劣っても収益性は高いため、今後は家族とも相談のうえで労働負担を考慮しながら栽培面積を拡大予定と話してくれた。

